

2005年3月30日
ユーシーカード株式会社

- 「UCカード」新TV-CM -
“自分を楽しもう。UCカード。”

歌舞伎俳優の中村獅童さんが
等身大のキャラクターを演じます

「お好み焼き屋 篇」、「酒屋 篇」4月1日(金)からオンエア開始

ユーシーカード株式会社(本社:東京都港区 代表取締役社長:上杉純雄 以下、UCカード)は、2005年度「UCカード」のイメージキャラクターに、歌舞伎俳優の中村獅童さんを起用し、新TV-CM「お好み焼き屋 篇」、「酒屋 篇」(各15秒)を4月1日(金)から全国で放映いたします。



「UCカード」TV-CM「お好み焼き屋 篇」より



「UCカード入会申込書」写真より

2005 年度「UC カード」の新イメージキャラクターは、伝統芸能・歌舞伎での活躍にとどまらず、映画やTVドラマ、さらにはファッションリーダーとして、老若男女を問わず人気がある歌舞伎俳優『中村獅童』さん。“さまざまな世界で活躍しトレンドの先端をいく”中村さんの多彩な才能が、“日常のさまざまなシーンで多様な決済・サービスを提供する”という「UCカード」の多様性に通じるものがあることから、今回の起用に至りました。

今まで以上に「クレジットカードの個性」が問われている昨今、八面六臂の活躍を見せている個性的な中村さんに、等身大のキャラクターで「UC カード」のある楽しい生活を表現してもらうことを通して、シンプル、かつ、ストレートに「UC カード」の魅力を訴求していきたいと考えています。

今回の TV-CM では、顔馴染みの店長がいる「お好み焼き屋」や、幼馴染みのいる「酒屋」を舞台に情緒あふれる物語を展開。馴染みのお店で「UC カード」を実際に利用する等身大の中村さんを見ることが出来ます。キャッチコピーの“自分を楽しもう。UC カード。”には、「『UC カード』が、お客さま一人ひとりを刺激し、楽しむためのきっかけ作りに役立つ存在でありたい」との「UC カード」の強い意志が込められています。「UC カード」と中村さんが持つ多様性とを重ね合わせることで、幅広い層のお客さまに向けて「UC カード」を強くPRし、「UC ブランド」のイメージ向上を図っていきます。

新 TV-CM について

今回の TV-CM では「お好み焼き屋 篇」と「酒屋 篇」(各 15 秒)の 2 タイトルを放映いたします。

「お好み焼き屋 篇」

舞台は久しぶりに訪れた下町にある馴染みのお好み焼き屋。中村さんがあつあつのお好み焼きを食べているところに、子供の頃からかわいがってもらっている店長が現れ、中村さんのお好み焼きをつまみ食い。「なんで店長が食ってんだよ！」とうっとうしがる中村さんに、店長は「久々にお前が来てくれたから、うれしいんだよ」と実に楽しそう。その後も、「母ちゃん、ビール」(店長)、「頼んでねーよ！」(中村さん)、「俺んだよ！」(店長)と、まるでコントのように昔の調子でやり合う二人。どうやら店長は、中村さんの久しぶりの来店が嬉しくてたまらないようです。「しょーがねーな、このオヤジは」といった表情を浮かべながらも、店長とのやり取りを楽しんでいる中村さんは、本当にリラックスしている様子。二人の楽しそうな笑い声が店内に響き渡ります。馴染みのお店でお腹も心もすっかり満足した中村さんは、支払いを済ませるべくレジへ向かい、「UC カード」を差し出します。すると、「一杯まけてやって！」と、後ろで店長がひと言。中村さんはすかさず「自分の分だろ！」と鋭いツッコミを入れます。帰り際まで笑いを絶やさない二人の姿は、現代社会が忘れかけていたどこかあったかい、人情味あふれる世界観を表現しています。

「酒屋 篇」

幼馴染み(女性)が働く酒屋にやって来た中村さん。何だかいつもと違ってそわそわしているようです。そんな姿を目ざとく見つけた幼馴染みに、さっそく「シャンパンって柄か？」とからかわれ、動揺を隠しつつも、「うっさいなァ」と何でもないとばかりに切り返す中村さん。ところが、幼馴染みはすべてお見通しといった感じで「あやし〜」と、さらに鋭いツッコミを入れてきます。「違いますっ、UC カードで」と、まるで話をそらすかのように支払いへ向かう中村さん。何とかピンチを切り抜けたかに見えましたが、何も知らないレジのおばちゃん(幼馴染みのお母さん)の「リボンは(どうするの)?」という言葉に、「内緒にして！」というジェスチャーをする中村さん。「やっぱそうじゃん！」と結局、幼馴染みにもバレてしまいました。仕方なく「いいだろ！別に」と開き直る中村さん。そんな仲の良い二人のやり取りを見て、おばちゃんは「変わらないねえ、アンタ達。結婚しちゃいな」と極端な結論を出します。絶対にあり得ないとばかりに、「やめてよ〜」と笑顔で否定する幼馴染み。続けて中村さんも、ふざけ半分に彼女の口調を真似しながら「ヤメテヨ〜」と否定します。「自分を楽しもう。UC カード。」というナレーションに重なる、信頼感あふれる楽しそうな三人の笑い声が印象的です。

撮影エピソード

全体エピソード

今回の撮影にあたって、いくつかの案が用意されましたが、最終的にこの企画に決定したのは、中村さんの「これがいい」という真剣なひと声でした。衣装のフィッティングにも、先頃上演中であった初座長公演『丹下左膳』の舞台の合間を縫って参加。深夜の作業でしたが、疲れた様子もまったく見せず、部屋いっぱい広げられた膨大な衣装の中から、本 CM のコンセプトに合致する衣装を選んでいました。また、事前に何度も監督をはじめとするスタッフとコミュニケーションを取り、今回の CM のコンセプト、カット割り等を中村さん自身がきちんと読み込んでいたこともあって、撮影当日、改めて絵コンテの説明などをするといった場面も一切ありませんでした。おかげで撮影は超ハイテンション・ハイスピードで、順調に進みました。

「UC カード」のイメージキャラクターに決まり、中村さんはさっそく「UC カード」の会員に。中村さんにとっては、人生で初めてのクレジットカードだったようで、「スーパーやコンビニでも使えます」などという関係者の説明を、興味津々、うなずきながら、真剣な表情で聞いていたのが印象的です。

「お好み焼き屋 篇」

撮影は 3 月初め、東京・月島のとあるお好み焼き屋さんで行われました。日中、人通りの多い中でのロケだったため、撮影に気付いた一般の方が思わず立ち止まって見ていることもしばしば。撮影中、地元の月島女性たちの「あそこで、中村獅童の撮影が行われているんですってよ～」という話し声や、男子学生の「あれ、中村獅童じゃない、超カッコいい！」といった驚きの声が聞こえてきました。老若男女、幅広い世代に認知されている中村さんの人気ぶりを改めて思い知らされました。

店内の壁には著名人のサイン色紙や記念写真をはじめ、人気メニュー等が飾られており、昔ながらのお店、下町感を演出しています。そんな中、エキストラとスタッフの盛大な拍手の出迎えを受け、「おはようございます！」と元気よく登場した中村さん。いい具合に油のにおいが染み込んだ座敷に腰を下ろすと、「こういうところに座っていると、何だか生ビールが飲みたくなっちゃいますよねえ～」とニッコリ。東京生まれだけに、下町情緒豊かなその雰囲気が懐かしかったのでしょうか、しばらくの間、店内の様子をゆっくり見回していました。

二人が互いに指差しながら笑うシーン。最初のテストで思いのほかアドリブが決まり、完璧に近い演技を披露した中村さん。「今のはもう二度とできない」と苦笑いする中村さんでしたが、本番では見事にテスト時を上回る完璧な演技を見せてくれました。歌舞伎の舞台をはじめ、幾度も緊張感ある舞台を経験しているだけに、その演技は「お見事！」という他ありませんでした。

「酒屋 篇」

撮影は「お好み焼き屋 篇」の撮影後、場所を移して行われました。一日で 2 タイトルを撮影するというハードスケジュールだったため、夜が深まるにつれ、少しずつ疲労の色が濃くなり、重苦しくなっていく現場。そんなスタッフ達のテンションをアップさせるべく、物真似をしたり、大声を張り上げたりして、懸命に鼓舞していたのが中村さんでした。「あれにはものすごく助かった、頭が下がる思い」とは撮影後のスタッフの弁。自らの演技で周囲をグイグイと引っ張っていくその姿は、まさしくお芝居の“座長”そのものでした。

UCカード TV-CM「お好み焼き屋 篇」(15秒)ストーリー



中村さん：「なんで店長が食ってんだよ！」

店主：「久々にお前が来てくれたから、うれしいんだよ。」



中村さん：「俺だよ！それ」

店主：「母ちゃん、ビール！」



中村さん：「頼んでねーよ！」

店主：「俺だよ！」

二人：「ハハハハハ！」



中村さん：「UCカードで。」



店主：「一杯まけてやって！」

中村さん：「それ、自分の分だろ！」



中村さんNa：「自分を楽しもう。UCカード。」

店主：「また来いよ！」

UCカード TV-CM「酒屋 篇」(15秒)ストーリー



看板娘：「シャンパンって柄か？」

中村さん：「うっさいなア。」



看板娘：「あやし〜。」

中村さん：「違いますっ。」



中村さん：「UCカードで。」

おばさん：「リボンは？」

中村さん：「ううっ。」



看板娘：「やっぱそうじゃん！」

中村さん：「いいだろ！別に。」

おばさん：「変わんないねえ、アンタ達。結婚しちやいなよ。」



看板娘：「やめてよ〜。」

中村さん：「ヤメテヨ〜。」(口真似)

中村さんNa：「自分を楽しもう。UCカード。」

三人：「ハハハハハ！」

< 中村 獅童 プロフィール >

二代目 中村 獅童 (ナカムラ シドウ)

1972年(昭和47年)、東京生まれ。祖父は昭和の梨園の名女形と謳われた三世中村時蔵(トキゾウ)。

叔父に故萬屋錦之介(ヨロズヤキンノスケ)、中村嘉律雄(カツオ)をもつ。「獅童」の名前の由来は祖父三世時蔵の俳号による。伝統と格式の世界に生まれながらも、常に新しい挑戦を続け、モデル、映画、舞台、TVドラマなどで幅広く活躍している。

< 直近の予定 >

2005年3月19日～ 映画「いぬのえいが」公開

2005年4月2日～ 主演映画「隣人13号」公開

2005年5月3日～5月27日上演 「18代目中村勘三郎襲名披露・五月歌舞伎」(歌舞伎座)

2005年6月5日～6月20日上演 「坂東玉三郎特別舞踊公演」(京都四条・南座)

< 制作スタッフ >

| | | | |
|---------------|-----------|--------|--------|
| 広告代理店 | 株式会社電通 | ディレクター | 水落 豊 |
| 製作会社 | 株式会社電通テック | 撮影 | 中堀 正夫 |
| クリエイティブディレクター | 柳島 康治 | | 鈴木 一郎 |
| プランナー | 小山田 彰男 | 照明 | 丸山 文雄 |
| プロデューサー | 足立 紀史 | 美術 | 佐々木 記貴 |
| | 西村 英明 | スタイリスト | 長瀬 哲朗 |
| | 飯田 知紀 | ヘアメイク | 和田 吉元 |
| プロダクションマネージャー | 大賀 遊 | 出演 | 中村 獅童 |